

コスト削減?CO2削減? FM視点で見る 新電力4つのポイント

2016年に一般家庭まで普及した「電力自由化」。意外と歴史は古く、工場やオフィスビルは10年以上前から自由化されている。まだまだ認知度は低いですが、実はコスト削減とCO₂削減を同時にできる、FM視点では非常に使い勝手の良いサービスである。これまで「でんきの窓口」として約1,200棟の電力会社見直しをコンサルティングしてきた中で得たポイントをご紹介します。

ポイント1. CO2排出係数

地域電力会社と新電力では、CO₂排出係数（各種環境報告書で報告する係数）が違う。公表データより各電力会社の排出係数を事前にチェックし、電力会社を切り替える際にCO₂が削減されるか増加になるか、社内方針と照らし合わせておくことをお勧めしたい。また、CO₂フリーの新電力や料金メニューが存在するので、環境配慮を重視する企業はぜひ検討していただきたい。

ポイント2. 電源構成

一度電力契約をしたら契約単価は維持されるが、地域電力会社が値上げをするように、何らかの要因で単価変更が起きる可能性はある。不測の事態に備えて、あらかじめ注視しておきたいのが各電力会社の電源構成である。「自社発電所での発電」「他社発電の購入」「卸電力市場（JEPX）からの調達」等の割合をヒアリングしつつ、その新電力にとっての電力事業の位置付け（電力事業と本業の関連性等）を把握しておきたい。全面自由化以降JEPXの売買単価が安くなっ

池田 良太 いけだりょうた

オーベラス・ジャパン株式会社
代表取締役副社長
認定ファシリティマネジャー



ているため、市場買付けがメインの新電力にとっては良好な調達環境が続いているが、市場は単価変動が大きいので一気に逆転になるリスクもある。それに耐えうる体力（キャッシュ）のある電力会社かどうかは事前に調査しておきたい。

ポイント3. エリア・規模・負荷率

業界上位だからコスト削減が大きいとは限らない。昼夜や季節による電力使用量の変動によって得手不得手があるので、必ずしも1社にまとめようとせず、建物ごとに最適な電力会社を選定することも視野に入れておきたい。ただし、1社にまとめて請求業務等を一本化したいという方針であれば、供給エリアを確認のうえ1社契約を前提に価格交渉していくのも良い。

ポイント4. 契約条件

原則1年契約だが、長期契約可能な電力会社もある。また、1年未満での解約は違約金がかかるので注意すること、1年経過後の解約の扱いや、万が一に備えて違約金の計算方法についても事前に確認しておきたい。なお、需要家側がこれを防ぐことはできないが、これまで約款変更により需要家側に不利なルール変更を行った事例が存在するので、情報収集しておくことをお勧めする。

最後に、上記ポイントを押さえれば十分にプロジェクトを推進できると思うが、ここでお伝えできない情報や個別相談については、当社の無料相談サービスをご利用いただきたい。

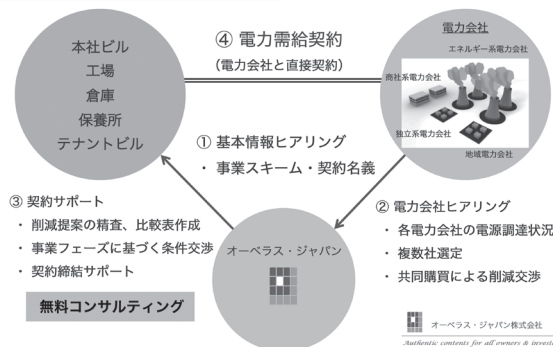
なぜ、電力会社を見直すべきなのか？

- ① 電力会社によってCO2排出係数が全然違うから
- ② 見直しにより最大▲30%も削減できるから
- ③ 携帯の機種変のように契約を見直すだけだから
- ④ 送電面のリスクは変わらないから
- ⑤ 全国(沖縄以外)、どんな建物でも見直せるから

オーベラス・ジャパン株式会社
Authentic contents for all owners & investors

図表1 なぜ、電力会社を見直すべきなのか？

オーベラス「でんきの窓口」事業



図表2 オーベラスの「でんきの窓口」事業